

特例認定 NPO 法人ながいく

2023 年度 事業報告
及び
2024 年度 事業計画

**特例認定 NPO 法人ながいく
令和 5 年度(2023 年度)
事業報告書**

(令和 5 年 6 月 1 日 ~ 令和 6 年 5 月 3 1 日)

目次

1. 運営にかかわる事業	3
1-1. 役員・職員・会員	3
1-2. 運営に関する各種会議	3
1-3. 寄付・助成金等	3
1-4. 事業受託	4
1-5. 研修	4
1-6. 地域イベント等への参加・出展	5
2. 子育て支援に関する相談事業	6
2-1. 子育てひろば・おやこ食堂（昼食提供）	6
2-2. 利用者支援事業・出張子育て相談	7
2-3. 弁当・食糧品・生活用品の配布	8
2-4. 子ども第三の居場所ぽんぽん	9
2-5. 子ども食堂（夕食提供）	10
3. 総括	11

1. 運営にかかわる事業

1-1. 役員・職員・会員

役員数 6 名（理事 5 名、監事 1 名）

職員数 12 名

正会員 18 名

賛助会員 2 名

1-2. 運営に関する各種会議

内部	通常総会	1 回	2023/7/23
	理事会	5 回	2023/6/4、7/23、9/24、12/3、2024/3/23
	スタッフミーティング	12 回	2023/6/5、7/3、9/4、10/23、11/22、12/14 2024/1/15、2/21、3/15、4/15、4/24、5/22
外部	長久手市子どもの居場所部会	3 回	2023/6/5、11/1、2024/3/19
	子育て支援ネットながくて定例会	3 回	2023/7/26、10/18、2024/1/24
	ボランティアセンター運営会議	10 回	毎月第 2 木曜日

1-3. 寄付・助成金等

(1) 寄付 64 名（実数） 1,205,827 円（2023 年 10 月 23 日～2024 年 5 月末）

(2) 助成金等

助成元	名称	金額 (総額)
(公益)日本財団	子ども第三の居場所事業 2023	3,555,979 円 (5,760,000 円)
(独)福祉医療機構	令和 4 年度（補正予算）助成	6,994,000 円
(社福)愛知県共同募金会	つながりをたやさない社会づくり事業費	300,000 円
(公益)日本財団	子ども第三の居場所事業支援金	450,000 円
(特非)全国子ども食堂支援センター・むすびえ	むすびえ・子ども食堂基金 2023 年度春募集	100,000 円
(特非)キッズドア	ごはん応援プロジェクト 2023（令和 5 年度ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業）	2,990,000 円
長久手市	長久手市燃料等価格高騰対策補助金	192,000 円
愛知県	愛知県子ども食堂食材費高騰対策支援金	80,000 円
(特非)全国子ども食堂支援センター・むすびえ	むすびえ・子ども食堂基金 2023 年度秋募集	100,000 円

愛知県	愛知県子ども食堂推進事業費補助金 学習推進事業費	20,000 円
(一社)篠原欣子記念財団	フルーツ等支援助成	20,000 円
(社福)愛知県共同募金会	つながりをたやさない社会づくり事業費	300,000 円
(公益)愛恵福祉支援財団	2023 年度愛恵福祉支援財団支援金助成	200,000 円
長久手市	長久手市中小企業者等支援補助金	100,000 円
(特非)キッズドア	ごはん応援プロジェクト 2023 (令和 5 年度ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業補正予算分)	500,000 円
愛知県	愛知県子ども食堂食材費高騰対策支援金	130,000 円
(株)マルト水谷	ハッピーリングチャリティ 2023-2024	70,000 円
(公益)キューピーみらいたまご財団	キューピーみらいたまご財団 食支援活動助成 2024 年度	200,000 円
長久手市	長久手市原材料費等価格高騰対策支援金	81,200 円
(社福)愛知県共同募金会	つながりをたやさない社会づくり事業費	300,000 円

(3) ボランティア 年間のべ約 600 名

子どもの見守り、利用者さんとの交流、調理、イベント補助、清掃、環境整備など

1-4. 事業受託

長久手市より令和 6 年度地域子育て相談事業（利用者支援事業）受託

当期充当資金 360,568 円（総額 6,040,000 円）

1-5. 研修

(1) スタッフ研修

JUNO 柴田朋子氏 支援員として大切なこと「聴く」

吉田しのぶ氏 アドラー式子育て ComPAS 体験会

ストレングスファインダーで強みを知る

ツクルの運動会上映会

(2) 他団体主催の研修等への参加

吉田しのぶ氏 アドラー式子育て ComPAS 講座

子育てひろば全国連絡協議会 地域子育て支援拠点等 初任者研修

愛知県子育て支援員研修・利用者支援員研修

愛知県福祉局児童家庭課 ヤングケアラー講座

愛知県食品衛生協会 食品衛生責任者養成講習会

NPO 法人子育てを楽しむ会 迫きよみ氏 抱っこ乳幼児の発達発育に関する研修

1-6. 地域イベント等への参加・出展

愛知県社会福祉協議会 東尾張地区ボランティア大会（田中講演）

まちづくり協議会 北小学校区共生ステーション交流会

ながくて夏フェス（おたま楽団出演）

長久手市社会福祉協議会 ボランティアカフェ（団体紹介出展）

長久手市社会福祉協議会 福祉まつり（ミニゲーム&駄菓子屋出展）

北児童館まつり（ミニゲーム&駄菓子屋出展）

はれる屋会（お手紙ワークショップ出展）

ながくて楓まつり（おたま楽団出演）

愛知フットサルクラブ ながくてスポーツフェスティバル（駄菓子屋、ぽんぽんクッション出展）

みんなまちエナジー クリスマスツリー点灯式（おたま楽団出演）

リモテラス冬の本まつり（バースデーカード作りワークショップ出展）

赤い羽根共同募金会寄託式（田中講演）

アイン保育園 ながくて親子フェス（バースデーカード作りワークショップ出展）

イオンモール長久手 ベビーフェスタ（出張サロン、ぽんぽんクッション出展）

あぐりん村・(株)坪井利三郎商店 お招きマルシェ（おたま楽団出演）

多様なまなびマルシェ（駄菓子屋、団体紹介出展、田中トークイベント出演）

2. 子育て支援に関する相談事業

事業費 20,886,905 円

前年度より継続して子育てひろばと昼食提供（おやこ食堂）、利用者支援事業（出張子育て相談）、子ども第三の居場所、夕食提供、フードパントリーを実施しました。

2-1. 子育てひろば・おやこ食堂（昼食提供）

事業費	4,319,880 円
目的	家庭内にひきこもりがちな乳幼児親子や不登校児が安心してコミュニケーションをできる場を提供する。食品や電気代等の値上げで食費を削っている家庭が多いことから、助成金を利用することで大人 300 円子ども無料の価格を維持し、困窮家庭が利用しやすくする。また、経済的困窮世帯については無料で利用できるようにする。
開催日時	毎週月・水・金および第 3 日曜 10～13 時（2024 年 4 月は休止）
開催場所	子育てシェアの家ぼんぼん
対象者	妊娠中～未就園児の親子、不登校の子ども 8～10 組
スタッフ	ひろば見守りスタッフ 2～3 名 ランチ調理スタッフ 1 名 他ボランティア・講師など
参加費	大人 300 円 子ども無料
実施状況	<p>年間延べ人数・・・大人 914 人・未就学児 1085 人・小学生 34 人 実人数・・・大人 200 人程度・未就学児 250 人程度・小学生 10 名程度 年間活動日数・・・132 回</p> <p>親子向け講座等 リズムあそび、ベビーマッサージ、アロマテラピー、美姿勢レッスン、離乳食・幼児食教室、ヘッドマッサージ、保健師さん訪問日、CSW 訪問日、包丁研ぎ</p> <p>5 月のスタート時は 7 組の予約としていたが、「電話で空きがあるか訊ねてもらう」などの方法で、10 組程度まで受け入れた。食事に関わる費用は高騰を続け、支援の必要な家庭が増えてきた。私たちの食材費負担も、大幅に増え大変だったが、寄付などを活用し、なんとか 1 年間提供し続けることができた。</p> <p>助成金を活用して、玄関横の和室に作り付けの本棚を設置したり、ボランティアさんに庭の整備や屋内の装飾を施していただいたり、親子が楽しく心地よく過ごせる環境を整備した。</p>

2-2. 利用者支援事業・出張子育て相談

事業費	2,879,920 円
目的	スタッフの公認心理師を中心に、社会福祉協議会・ボランティアと協力し、子育てについての相談会を実施する。市内公共施設や商業施設内で開催することで、親子が子育てひろばや社会資源を利用するきっかけ作りをする。また、相談の内容に応じて市役所等と連携をはかる。
開催日時	毎週火・木 10～13 時
開催場所	イオンモール長久手・各共生ステーション・リコモテラス公益施設など
対象者	妊娠中～未就園児の親子
スタッフ	相談員（公認心理師・助産師・社労士・保育士・利用者支援員）2 名 ボランティア数名
参加費	無料
実施状況	<p>年間延べ人数・・・大人 404 人・未就学児 456 人 年間活動日数・・・88 回</p> <p>公認心理師・助産師・社会保険労務士のスタッフが中心となって、子育てや育休復帰について相談を行った。</p> <p>10 月からは毎週火曜日に、イオンモール長久手と協力して相談会を行えることになり、非常に多くの親子にアプローチすることができた。開催後は LINE 公式アカウントへの登録が増えており、新規利用者獲得につながっている。</p> <p>木曜日は市内各所を巡回し、共生ステーションに次回の開催日時を掲示していただく、他の団体と情報交換する等、協力・連携をとりながら実施した。拠点内にとどまらず地域へ出向くことで、親子へのアプローチや他団体との関係構築につながっている。交通手段の限られる親子も参加しやすくて嬉しいとのお声をいただいた。</p> <p>相談会の開催中に緊急支援の必要な親子に出会ったケースでは、市役所職員、社協職員に協力を仰ぎ、適切な支援につなぐことができた。</p>

2-3. 弁当・食糧品・生活用品の配布

事業費	2,295,964 円
目的	無料で食糧品や生活用品を配布することで子育て家庭の負担を軽減するとともに、コミュニケーションをとることで生活の状況や親子の様子を知る。ひとり親家庭や非課税世帯など生活や子育てに課題を抱えている家庭を把握し、支援が必要な場合には当団体・行政・社協などの地域資源につなげる。
開催日時	弁当配布：毎月第2・第4水曜日 17～19時（2024年4月は休止） フードパントリー：2023年5月28日・6月10日・ほか困窮家庭に随時
開催場所	子育てシェアの家ぼんぼん
対象者	子育て中の家庭
スタッフ	配布スタッフ3名 ボランティア数名 NPO 法人楽歩（弁当の用意・配付）
参加費	無料
実施状況	<p>弁当配布 年間延べ人数・・・1,100人（各回50家庭100食） 実人数・・・70家庭程度 年間活動日数・・・22回 毎月2回、1家庭2個の弁当とレトルト食品、文具、生活用品等を配布した。疾病などで取りに来ることが難しい家庭に対しては、スタッフが自宅まで配達した。冬期は長久手市役所で開催した。駐車場が使えるため、来やすいと感じる人が多いようだった。お弁当の配布は、渡すだけで終わってしまうことが多いため、お菓子を用意して子どもが選んでいる間におしゃべりをするなど、コミュニケーションの余地を作った。</p> <p>フードパントリー 年間延べ人数・・・834人 実人数・・・200家庭程度 年間活動日数・・・5回 子どもが駄菓子を選んでいるあいだに、別室で待機する保護者はスタッフと話しができる仕組みにした。子どもは「自分で選ぶ・決める」体験をしてもらい、親の元を離れられない子どもも、学生ボランティアと共に自分でお菓子を選ぶことができた。その間、子どもが近くにいると話にくい相談などもすることができた。</p> <p>他の事業に参加するにはハードルが高い、と感じている家庭も、気楽に利用しやすい事業であり、他の活動や支援につなぐための窓口として機能している。</p> <p>また、スタッフは「困りごとを察する力」がスキルとして身につけてきている。得意分野を活かしつつ、関連機関と連携を図っていきたい。</p>

2-4. 子ども第三の居場所ほんぽん

事業費	7,649,300 円
目的	子どもたちが自ら選択・決定・実行できる能力を身に着けられる場を提供する。パン教室やアロマ工作教室、バス遠足等のイベントを実施し、体験機会を提供する。大人は子どもたちの活動を阻害しないよう、見守りに徹し、解決の必要な課題を持つ家庭は、行政・社協・学校とも連絡を取り合い、必要な支援先とつなげる。
開催日時	毎週月・水・木 10~17 時 30 分
開催場所	子育てシェアの家ほんぽん
対象者	小中学生 6~10 人
スタッフ	見守りスタッフ 1 名 他ボランティア・講師など
参加費	年間登録料 1,000 円(令和 6 年 3 月まで)
実施状況	<p>年間延べ人数・・・幼児 8 人小学生 775 人中学生 8 人 実人数・・・幼児 2 人小学生 83 人中学生 4 人程度 年間活動日数・・・123 回</p> <p>学校へ行かない日の居場所事業として午前中から開館し、プリント学習や昼食の提供を行った。10 月からは、自立課題（毎回）とランチクッキング（週 1 回）を実施した。（自立課題は、スモールステップで各自に合わせた課題を行うことで、自立に必要な力をつけていくプログラム）ランチクッキングでは、予算内で献立を決め、買い物・調理を子どもたちが主体的に行った。同じメニューを繰り返し作りブラッシュアップする姿や、いかに低額で済ませるかを工夫する姿などが見られた。11 月からはお出かけの日（週 1 回）を設定し、予算や時間に制限がある中、自分の希望の行先にするためプレゼンをしたり、妥協点を探って交渉をしていた。</p> <p>放課後の居場所事業では、おやつ作り、アロマクラフト、とうふ教室、アナログゲーム大会などのプログラムを行った。10 月からは、子ども駄菓子屋さんとして、子どもがミニ駄菓子屋さんの店員となり、接客や呼び込み、チラシの制作・配布などを行い、地域交流の場ともなっている。</p> <p>夏休みは、バス旅行、木工教室を行った。バス旅行は初めての試みで、子どもたちにとって、新鮮な体験となった。誰と何をして過ごすのか、いつ昼食をとるのかなど自由だったことも、子どもたちにはめったにない体験だった。</p>

2-5. 子ども食堂（夕食提供）

事業費	3,741,841 円
目的	小中学生とその保護者を中心に、だれでも参加できる夕食の子ども食堂を実施する。ひとり親や非課税世帯などの要支援家庭は無料で利用できるものとする。大学生や地域の方にボランティアとして参加していただき、利用者さんと一緒に食事を取り、子どもたちの遊び相手になってもらうことで、多様な人々の交流を促す。食事はバイキング形式で提供し、子どもが「自分で好きなものを選ぶ」体験を提供する。
開催日時	毎週 1 回（火または金）17～20 時（2024 年 4 月は休止）
開催場所	子育てシェアの家ぼんぼん
対象者	子育て中の家庭だれでも
スタッフ	見守りスタッフ 2～3 名 ランチ調理スタッフ 1～2 名 他ボランティア数名
参加費	大人 300 円 小中学生 100 円 未就学児 無料
実施状況	<p>年間延べ人数・・・大人 871 人・未就学児 638 人・学生 660 人 年間活動日数・・・42 回</p> <p>バイキング方式で、子どもが盛り付けるときは保護者が立ち会わないことで、子どもたちが「自分のことを自分で決める」スタイルが浸透してきた。初めて参加する子ども、全体の雰囲気の中で背中を押され、自己決定の機会を得ることができた。</p> <p>困窮世帯の子どもが子どもだけで参加するケースも増えつつある。大学生や地域の大人と、一緒に楽しく食事をする中で、場や社会に対する信頼感を形成することもできている。</p> <p>自分で配膳する、後の人を思いやって取る量を加減する、苦手な食材に挑戦する、食べられる量・食べきる時間の見通しを立てる、知らない人ともコミュニケーションをとる、兄弟末子が年少児の世話をするなど、様々な初体験の場ともなっている。</p> <p>学生が幼児から児童期の発達・成長、親子の関わりを自分の目で見て学ぶ場でもある。</p>

3. 総括

今年度で、当団体は設立から5年目を迎えました。厳しい挑戦となりましたが、特例認定を受け、「特例認定 NPO 法人」となることができました。これもひとえに、日頃から活動を支えてくださる正会員、賛助会員、寄付者の皆様のおかげです。

本来であれば、もう少し頻繁な報告ができれば良いのですが、活動の幅が広がるにつれ、支援活動により多くの時間を割く必要が生じてまいりました。そのため、年に1度の報告となりますが、これは子育て支援の活動により一層力を注いでいるためです。どうぞ、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

ながいくの LINE 公式アカウントの登録者数が1,200名を超えました。社会福祉協議会など地域の協力もあり、今年度は課題を抱えた家庭の登録が多くなったように感じます。「困っているから助けてほしい」という発信を受け取ることも増えました。

その一方で、各家庭や子どものニーズを十分に把握できず、関係性を維持することができなかつたり、必要な支援を用意することができなかつたりと、もどかしい思いをすることも増えました。困窮家庭や孤立家庭の助けになるということが非常に難しいことであり、これから団体や地域で学ぶべきことが多いと感じました。

しかし、子育てひろばや出張サロンなどでは、気軽に子育ての相談をしやすい雰囲気作りができてきました。スタッフも研修などで傾聴や相談の技術習得に励んでおり、非常に効果が出てきていると感じます。ながいくの子育てひろばは、おやこ食堂（一般的には子ども食堂です）との合体型であることが特徴です。「子育てシェアの家ぽんぽん」で子育てひろばをスタートした当初は、ランチ提供はなく、それぞれがお弁当を持って来ていました。現在は、IKEAさんの協力でキッチンを改装できたこともあり、汁物・ご飯・おかずを安価で提供することができています。利用する方からは「自分も温かいご飯が食べられる」「子どもがたくさん食べてくれる」と好評です。

ぽんぽんがどんな場所か分からなくて不安だという方々は、オープンスペースで開催される出張サロンでスタッフと接することもできます。こちらも、気楽に参加できて相談できると、多くの方に参加いただけるようになりました。

コロナ禍が過ぎたとされ、求人も増えたり保育園の受け入れ枠も増えました。これらの活動をしていて感じることは、「0歳から育休から復帰する母が増えた」ということです。決して悪いことではないのですが、その分地域の資源や人々と接する機会は、大いに減っているように感じます。

私たちの役目は、この短い育休の間に父母を地域とつなげることだと思います。育休の間にできる限り私たちの活動を知ってもらい、少しでも参加していただく。

また、育休復帰後も、私たちの活動に参加していただけるよう、工夫をしています。

経済的にも、非常に生活が厳しくなっている家庭が増えている中で、「子どもがいて良かった、長久手での子育ては楽しかった」と感じてもらえるよう、努力していきます。